

りける。夫より旅宿の心安き人々、また加賀より登り居りし客等凡四十七人に、彼大饅頭をば振舞ひけるに、何れ大に悦び、其の夜曉頃までに漸く平げけり。是に依つて彼大まんちうをば、今に上野饅頭と呼びなしけるとなん。とあり。今按するに、昔より大食の傳話多しといへども、饅頭の大食は諸記録にも未だ所見なし。饅頭は文安元年の下學集飲食門に載せたり。扶桑洞上聯燈錄卷二大智禪師の傳などにも見たり。但し古き食品にはあらざるべし。

○英 町

龜尾記に云ふ。専光寺辻より六角堂辻までを英町と呼べり。是も中比安江木町の内地也。然るを近年町名改稱の時、町内に英田光濟寺あるを以て、町名を英町とし、ハナフサ町と呼べりといへり。按するに、右は文政四年金澤市中の町名を取らば、その混雜せしヶ所等に新に町名を立てたる時也。是より安江木町の古名を廢し、更に英町と改稱せしは、如何なる由縁なるか未だ詳かならず。又光濟寺の由縁を以て、改稱するならばアガタ町と稱すべき事にこそ。

○英田光濟寺跡

東派眞宗也。貞享二年の由來書に、當寺開祖光受、永正八年加賀郡英田郷領家村に建立。慶長二年金澤安江木町に移轉。とありて、其の寺地は町の中程南側なりしが、明治十六年六月河北郡領家村の舊地へ復歸し、英町の寺跡は町家となしたり。或は云ふ。光濟寺は、河北郡英田郷領家村にありし古刹にて、眞言宗なりしが、蓮如上人當國下向の頃、其の法義に服して弟子と成れり。富樫氏滅亡の頃は、當國門徒一揆の巨魁にして、賊將の一人たりといへり。按するに、富樫記・官地論に、長享二年六月富樫介政親石川郡高尾之城に楯籠り、本願寺門徒一揆取巻きける頃、加賀浪人阿曾孫八郎・小杉新八郎二千餘人を引率し、俱利伽羅口より亂入す。河北の軍勢英田の光濟寺大將して馳合ひ、散々に防戦す。阿曾・小杉利を失ひ敗北するに、追討して究竟の首三十餘討取る。とあり。又三州奇談に云ふ。河北郡英田郷に御門村と云ふあり。往昔大同丙戌年南山大師石動山を越え給ふ頃、龍燈老松に懸り、如來の尊容奇雲の間にあらはれたり。依りて一字を建立し、大日尊をば安置し、爰に止ることとせ、太子二歳の尊像を彫刻ありて、弟子教山

に授けて歸洛あり。それより十三世の法印圓觀住職の頃、順徳院天皇佐渡國へ遷幸の頃。氣比の宮敦賀より御船に召れしに、海上逆風吹きて、既に御座船しづまんとす。人々鳳闕鎮守の神々に祈禱して、忽ち南の松山に龍燈をかゝげ、その光りを目當にして、御船を寄すれば、一つの岸に至る。夫より爰を王崎といふ。帝此山に臨幸あり。承久三年霜月十日院主に勅して、龍松山廣濟寺と綸命あり。かくて二年御座候内、洛の明神遷座有りしを加茂村と云ふ是なり。又皇居の跡は今御門村といひ、百間の田地を領家というて、其事跡炳焉たり。其後文明三年本願寺の蓮如上人北國化導の比、當山十九世阿闍利德齋、此蓮如上人に謁して法要を尋問し、密宗を改めて一向宗に入りぬ。則彌陀の尊像をあたへ、名を改めて光一と成る。これ廣濟生死流轉今身光一尋の偈文によるなり。是より一向宗の道場と成る。其後佐々成政と取合の頃、此御堂回祿におよび、佛像・經卷取退きぬる中にも、彼太子の木像は退け得ず。院主光誓悲歎して、灰燼の跡を探し見るに、彼木像一点の損じなく、微笑して立給ふ。其後廣濟寺は小室に残し奉り、英田

郷數村の産神とあがめて、二月廿四日を祭日とす。其後廣濟寺の住職光雲の代、夢想の告有つて、領家村より太子の像を金澤へ迎へたるに、輕々と來り給ふ。是元文二年二月の事なり。其後彼近郷殊の外五穀不熟にして百姓おだやかならず。是は太子の他所へ移り給ひしゆゑかと、且暮に歎き、又昔より此太子の堂守たりし領家村權左衛門といふもの、取りわけ眞像遷座を鬱憤におもひ、密に上京して、本山本願寺の役人へ悉く讒言し、猶また國法にも訴訟を企て、終に廣濟寺の住持は退院におよび、太子の像も舊室に歸り給ふ。此邊の七郷また元のごとく、五穀熟せしといふ。とあり。按するに、右龍松山廣濟寺は、則ち今いふ英田の光濟寺が來歴にて、むかしは廣濟寺と書きたるならん。三箇屋版の六用集にも、安江木町廣濟寺とあり。さて右領家村の太子像も、今は光濟寺守護すといへり。又按するに、順徳天皇承久三年佐渡國遷幸の時、加賀國河北郡英田郷御門村に滞在し給ひし事は、三州志變叢餘考にも、人碑に云ふ。順徳帝佐渡國へ遷幸の時、氣比の海より逆風起り、御船既に覆らんとす。此の時帝加州河北郡英田郷に暫く滯座